

授業科目 保健医療ソーシャルワーク論

【担当教員名】  河野 聖夫	対象学年	3	対象学科	社会
	開講時期	前期	必修選択	選択
	単位数	2	時間数	30

【カリキュラムポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	◎		

【概要・一般目標：G10】  
 生活者としての受療者・患者・家族が直面する生活問題を捉え、「わずらい」や「生活障害」への理解を得る。  
 保健医療福祉の現場から見える生活問題の特徴を考察し、  
 クライアントの自立や社会復帰の支援を目指した保健医療ソーシャルワークの理念や意義、理論と方法を学ぶ。  
 保健医療福祉の諸制度にも触れながら、専門職の連携、チームワークの方法と実際に学ぶ。

【学習目標・行動目標：SBO】  
 1) 受療者・患者・家族の置かれる社会的現状を知り、様々な生じる生活問題の諸相を考える。  
 2) 保健医療ソーシャルワークの基礎知識・理論を理解する。  
 3) 保健医療分野におけるソーシャルワークの実践（業務や展開過程、他職種との連携など）について理解する。  
 4) 医療ソーシャルワーカーの実践事例を通じて、社会的存在意義や役割、連携の方法について考察する。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	オリエンテーション		
2	保健医療福祉の現状と社会の変化に伴う歴史的な経過		参考図書紹介、資料配布
3	生活者としての受療者・患者・家族が直面する生活問題		資料配布 時事
4	保健医療分野におけるソーシャルワークの役割と意義		倫理綱領 業務指針
5	保健医療機関の組織と専門職		参考書第4章
6	医療ソーシャルワーカーの歴史と専門性		参考書第2章 第3章
7	保健医療ソーシャルワークの実践過程		参考書第6章・第8章
8	保健医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）の業務と実践		実践事例の考察 急性期医療
9	保健医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）の業務と実践		実践事例の考察 リハビリテーション医療
10	保健医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）の業務		実践事例の考察 難病・慢性疾患の医療
11	保健医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）の業務		実践事例の考察 終末期医療
12	保健医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）の業務		実践事例の考察 地域医療
13	保健医療福祉の多職種・多機関の連携・チームワークの意義		参考書第5章
14	保健医療福祉の多職種・多機関の連携・チームワークの視点と方法		実践事例の考察
15	まとめ		考察課題への取り組み

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)				
参考書	新訂 保健医療ソーシャルワーク原論 (社)日本医療社会事業協会編 相川書房 2006・2,200円 その他は授業内で紹介する。			
その他の資料	必要に応じてプリントを配布する。			

【評価方法】 出席状況 20 授業内小レポート 30 定期試験 50	【履修上の留意点】 毎回の授業では、事例や現場の話題を積み重ねながら説明や考察を進めていくので、各回のつながりが重要となります。 欠席するとそのつながりから分からなくなることが出てくるので、あらかじめ承知しておいて欲しい。  相談援助実習において病院での実習を予定する場合には、事前学習に欠かせない内容なので履修すること。
---------------------------------------	---